

令和 8 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

(1) 教育目標

- ・他人を思いやる心と豊かな人間性を育み、責任を重んじる自主・自律的な人格を育成する。
- ・自己の使命を自覚し、倫理を尊び、規律を守る社会性豊かな人間を育成する。
- ・高い志をもって真理を探究し、技術を磨き、社会の進歩発展に寄与する工業技術者を育成する。

(2) 教育方針

- ・主体的に学び、自ら問題を発見し、課題を解決する実践力と創造性を育成する。
- ・基礎学力と情報活用能力を充実させ、専門技術・技能の練磨を図る。
- ・勤労意欲と責任感、協調性を育成する。
- ・健康な心身と節度ある態度を育成する。

2 学校の特徴

新川地区における唯一の工業高校として、次世代の産業界を担う技術者の育成に邁進している。生徒は真摯かつ実直に「ものづくり」と向き合い、専門分野の知識・技能の習得や各種資格取得に向けた主体的な学習に取り組んでいる。また、課題研究、各種ロボット等の製作をはじめとする実践的活動を通して、創造的思考力や多角的な課題解決能力の伸長を図っている。

部活動も活発で、競技力の向上はもとより、自主・自律の精神に富んだ心身ともに健やかな人材を育成している。

3 学校の現状と課題

(1) 現状と問題点

- ・生徒はおおむね穏やかで実直な気質を備えているが、一方で、規範意識の醸成や自己抑制力の確立、他者との円滑な合意形成を図るコミュニケーション能力の育成に課題が認められる。
- ・基礎学力の定着不足や学習意欲の衰退、将来に対する目的意識の希薄化から、学校生活への帰属意識が十分に高まっていない層も一定数存在するため、教育相談や部活動指導、教科指導等、あらゆる教育活動を通して心の交流を図るとともに、家庭との連携を深め、生徒の健全な育成に努める必要がある。

(2) 課題

- ・生徒一人一人について、能力や適性の伸長を図ることを目標として、積極的に実践することのできる生き生きとした生徒の育成を図るために、次の課題を設定した。

－ 活力ある生徒の育成を目指して －

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画
1	学習活動	目標 ・地域や生徒の実態を踏まえ、系統的な基礎的・基本的学習内容や体験学習等を重視しながら、生徒が主体的・対話的に取り組むことができるよう授業形態や展開を工夫する。 ・「教科横断しながら育成を目指す資質・能力」の共有を図り、自らの適性を見極め、ものづくりと仲間との関わりの中で挑戦し成長し続ける生徒の育成を目指す。 ・I C Tの積極的な活用と効率的な教材作成に努め、学習内容の充実を図る。 ・進路についての明確な目的意識をもたせ、意欲的・計画的に学習に取り組ませるよう努める。 ・検定合格・資格取得に向け、生徒が意欲的に学習できるよう支援を行う。 計画 ・生徒の実態把握のための調査と結果の分析及び対策プランの作成と実行までを一連の作業とし、継続的に行う。 ・<u>UDG s（魚津工業高校が提案する、より良い人生のための目標）をきっかけとした授業を行い、各教科の知識・技能だけでなく、『考え、判断する活動』や『主体的に取り組む活動』を取り入れることで、育成すべき資質・能力の伸長を図る。</u> ・<u>I C Tの利活用について研究・理解を深め、互見授業による教員研修を積極的に行い、I C Tを活用した指導力の向上に努めるとともに、生徒がI C Tを活用することで主体的・対話的に参加し、深い学びにたどりつく授業を目指す。</u> ・関連の深い県内工場の見学や、インターンシップにより、望ましい勤労観・職業観を育成する。 ・各種資格試験や検定試験の案内や年間計画を配布したり、ジュニアマイスターポイントの取得状況を確認させたりして、資格・検定の取得意欲を高めさせるとともに、自ら学びに向かう生徒を支援する。
	学校生活	目標 ・<u>基本的生活習慣を確立させる。</u> ・<u>社会の一員として必要なルール・マナーの向上と規範意識の高揚に努める。</u> ・豊かな人間関係を築くことのできる生徒の育成に努める。 ・教師間の共通理解を深め、全職員による指導体制を確立する。 ・生徒一人一人が健康と安全及び環境衛生に対する理解を深め、主体的に健康管理ができる能力を身に付けさせる。 ・生徒一人一人が充実した高校生活を送ることができるよう支援する。 ・生徒が学校生活で直面する種々の問題や悩みを自ら解決し、自らの生き方を選択・行動できるよう支援する。 計画 ・欠席・遅刻の多い生徒への個別指導を充実させるとともに、家庭との連絡を密にする。 ・定期的に、頭髮・服装指導を実施し、諸規則遵守の気風育成と規範意識の高揚を図る。 ・式典、集会への参加態度を正す指導を徹底する。 ・登校指導やさわやか運動、学校生活全般を通して、積極的に声かけを行い、人間関係の基本となる挨拶や正しい言葉遣いを身に付けさせる。 ・校内巡視を実施し、問題行動の未然防止に努める。また、問題行動を起こした生徒に対しては、生徒指導部、学年、学科等を中心に組織的・継続的な指導を行う。 ・学校保健委員会等を通して、健康・安全に対する関心や理解を深める機会とする。 ・生徒保健委員会が中心となり、健康に関する啓発活動を行う。 ・清掃指導等を通して環境衛生に関する意識を高める。 ・生徒を支援するにあたり、担任、教科担当、部活動顧問、保護者、養護教諭や専門機関との連携を大切にし、関係者が協力しながら取り組む。 ・スクールカウンセラーや巡回指導員による発達障害についての講演等、校内研修会や学年会などを通じて教職員の共通理解を深め、資質の向上を図る。 ・年に2回(1週間程度の期間)の面接週間を設け、担任による個別面接指導を行う。

3	進路支援	目標	・ <u>様々な機会の中で、生徒自らが能力を発見・伸長し、進路への意識の高揚を図る。</u> ・ 社会での使命を自覚させ、自分の能力・適性にあった進路選択ができるよう指導する。
		計画	・ 工場見学、進路講話、先輩との座談会等の実施を推進する。 ・ インターンシップを推進し、職業観・勤労観を育成し、同時に社会人としてのマナー等についても学ぶ。 ・ 応募前に、希望する企業への職場見学を推奨する。 ・ 進学希望者に対しては、希望校への体験入学等の参加を推奨する。
4	特別活動	目標	・ 学校行事・部活動・生徒会活動・ボランティア活動などへの積極的な参加を促し、責任感・集団の一員としての社会性・道徳性・忍耐力等の育成に努める。
		計画	・ <u>部活動の加入率・積極的参加率の向上に努める。</u> ・ 週休日を含む週2日以上の子休養日を設定し、部活動が密度の高いものになるよう創意工夫する。 ・ 学校行事（体育大会や競技大会など）に生徒が積極的に参加するように努める。 ・ 募金や地域の活動への参加等ボランティア活動に積極的に参加する。 ・ 校舎内外の美化活動や全校生徒のマナー意識の向上に積極的に取り組む。 ・ ホームルームの時間の活性化を図る。
5	その他	目標	・ 本校の情報や取組を地域や中学校に向けて積極的に発信し、本校の教育活動について理解を促すとともに、地域や中学生から選ばれる学校を目指す。 ・ 教育目標の具現化及び教育方針の達成のため、構造的・機能的に校務分掌を組織し、適材適所に基づいた校務分掌により、的確、敏速な校務の遂行を図る。 ・ 奨学金貸与、安全振興会の周知等、生徒が安心して学校生活を送れるよう努める。 ・ 保護者との連携を深め、より活発なPTA活動を目指す。 ・ 教職員の専門性を高める研修を充実させるとともに、業務効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。 ・ 教育目標の実現に向け、各科と連携を図りながら効果的な予算執行により、教育環境の整備を推進する。 ・ 健康経営の視点を取り入れた職場環境の改善を推進し、教職員・生徒双方の心身の健康保持増進と、活力ある学校生活の実現を図る。
		計画	・ 学校の情報発信業務を分掌業務に位置づけ、学校HPやSNSを効果的に運用し、教育活動や生徒の活躍を機動的に発信する。また、中学校訪問や地域連携イベントを実施し、地域から選ばれる学校づくりを加速させる。 ・ 分掌、学年、教科、各委員会等を通して業務内容の共通理解を図り、業務分担を明確にし、適正、円滑な校務運営に努める。 ・ 奨学金貸与、安全振興会等について、生徒、保護者に周知徹底する。 ・ デジタルツールの導入を推進し、PTA運営の効率化と情報共有の迅速化を図る。 ・ ICT活用能力の向上を目的とした校内研修の実施や校務分掌の見直しによる業務負担軽減、メンタルヘルスケアを意識した職場環境の整備等に努める。 ・ 年度当初の各科及び各係からの予算要望を基に教育計画に従い、計画的かつ有効に予算を執行する。また、全教職員と連携しながら安全に留意し、適切な施設設備の維持管理に努める。 ・ ストレスチェックの確実な実施と学校衛生委員会の機能強化と連携促進を図り、教職員のメンタルヘルス不調の未然防止と早期対応に努める。また、保健室・相談室・学年が緊密に連携し、生徒の健康課題に対する組織的な指導・啓発活動を行う。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和8年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒が主体的・対話的に参加し学ぶことができる授業実践と育成すべき資質・能力の伸長を図る授業の工夫	
現 状	- 令和8年度より魚津工業高校は、技術や産業の急速な変化に対応できる技術者を育成するため、「一括募集」を導入し、入学後に幅広く基礎を学んだうえで、自分の興味や適性に合った学科・コースを選べる制度に改編し、多様な分野に触れた上で専門を選ぶことで、「深い専門性」と「広い応用力」を併せ持った人材を育成する。工業科における「広い応用力」とは、「情報活用能力」、「問題発見・課題解決能力」を想定しており、「社会の変化に対応する情報と統合した新たな工業教育」と、UDGsを活用した「社会で活躍する資質・能力の育成」といった目標を達成するための指導の改善が進められている。令和7年度はICTを活用した指導力向上及び教育内容の充実を目的とした互見授業を1回以上実施した教員の割合が93.5%であった。 - 授業をはじめとした学習活動に対し目的意識や基礎的な学力がやや不足しているが、UDGs（魚津工業高校が提案する、より良い人生のための目標）の取組に興味を示し、自己の成長を望む生徒が多くみられる。令和6年度はUDGs項目の内、評価4以上と感じた項目が年度当初より2つ以上増えた生徒の割合が、1年61%、2年70%、3年52%であった。 - 学校生活では、挨拶や清掃活動等をきちんと行うことができるが、授業や実習では、指示を待つ傾向が強く、自分で考えたり、自ら解決したりしようとする態度が不足している。将来、自己課題を解決し、やりたいことが実現できる資質・能力を育成する必要がある。	
達成目標	①キャリアパスポートUDGs自己評価（5段階）の内、重点的に頑張りたいUDGs項目の評価が、やや伸びた（評価4）、以上の生徒の割合	②ICT及びUDGsを活用した指導力向上及び教育内容の充実を目的とした互見授業を3回以上実施した教員の割合
	80%以上	80%以上
方 策	- 学習指導委員会等を通じて、各教科におけるICT及びUDGsを活用した学習活動を推進し、その活動情報を共有する。 - ICT及びUDGsを活用した授業の実践を行い、各教科の知識・技能だけでなく、「自ら考え、判断する活動」や「主体的に取り組む活動」を取り入れ、育成すべき資質・能力の伸長を図る。 「課題に取り組む力」を身につけることが重要であることを生徒に伝え、全教職員で根気強く生徒の指導にあたる。将来の進路を決めるため、将来働くためには、「学ぶこと」と「課題に取り組む力」が必要になることを伝え続ける。 - タブレット端末の効果的な活用方法や可能性を探り、その利用を推進する。 - 互見授業の開催・参加がしやすい環境を作り、多くの教員が互見授業に参加するよう各教科へ働きかけを行う。	

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）

令和８年度 魚津工業高等学校アクションプラン － ２ －	
重点項目	学校生活
重点課題	基本的生活習慣の確立
現 状	・現在、８割以上の生徒が８：３０ までには登校しているが、規範意識の低さから、安易に遅刻をしてしまう生徒がいる。 ・充実した学校生活を送るために、遅刻の防止を中心とした基本的生活習慣を確立する必要があり、生徒指導部では毎朝登校指導を行っている。 ・過去の遅刻回数はＲ５年度 238 回、Ｒ６年度 499 回、Ｒ７年度 355 回であり、ここ数年は特定の生徒による体調不良での遅刻が多く、起立性障害のある生徒もいる。 ・昨年度の統計結果をみると、体調不良・通院による遅刻が 184 回（51.8%）、寝坊など自己管理の甘さによるものは、106 回（29.9%）であった。また、年間の無遅刻生徒の割合（通院、体調不良等を除いたもの）は、79.1%（185 名）であった。遅刻指導対象生徒は 49 名であり、そのうち遅刻 2 回以上の生徒が 24 名、うち 5 回以上 8 名であった。
達成目標	年間の無遅刻生徒の割合（通院等、体調不良を除く）
	80%以上（155 名以上）※昨年度 79.1%（185 名）
方 策	・遅刻しないための事前指導を充実させる。学校全体であらゆる機会、場面で基本的生活習慣の確立および時間厳守の大切さについて指導する。 ・遅刻した生徒には、その都度、適切な声掛けをするとともに必要に応じて面談をし、遅刻の原因を考えさせ、自らの力で改善できるような指導を心がける。 ・遅刻を重ねる生徒には、学年・学科とも協力して個別指導を行う。 ・学年と協力し、朝学習への積極的な取り組みを促す。 ・食事、睡眠を正しくとるなど、自己管理、体調管理の徹底を呼び掛ける。

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）

令和８年度 魚津工業高等学校アクションプラン － ３ －	
重点項目	進路支援
重点課題	進路意識の高揚
現 状	・自分の将来や進路に対する認識が甘く、職業観・勤労観に乏しい生徒がみられる。 ・進路の選択決定において、継続的に取り組む態度に欠け、十分な対策を行わず就職試験や入学試験に臨む者がいる。 ・進学者の中に、明確な目的が感じられない生徒や基礎学力の低い生徒がいる。 ・３学年 86 名の内、61 名が就職を希望している。 ・過去４年連続で達成した質の高い指導水準を維持しつつ、生徒の特性や外部環境の変化に柔軟に対応しながら、一人ひとりに合わせた最適な進路指導を目指す。
達成目標	自分の進路決定先に納得している生徒（学年末にアンケート調査を行う）の割合
	92%以上
方 策	・インターンシップや応募前職場見学会への参加や進路講話などを積極的に推進し、生徒の進路意識を高める。 ・学年や学科と連携し、面接指導や進学補習の充実を図る。 ・面接指導や応募書類作成など、全教職員の協力を得て、きめ細かい指導を行う。 ・入れる会社・学校からぜひ入りたい会社・学校を考え、各自に合った進路希望実現に向けて指導にあたる。

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）

重点項目	特別活動	
重点課題	部活動加入者への積極的呼びかけと部活動の活性化	
現 状	・部活動への加入率は、4月の時点で1年89%、2年73%、3年81%であった。 ・1年生については、任意加入制への移行から数年が経過し、加入率の推移も安定期に入っている。昨今の傾向を踏まえ、適切な加入率の維持と活動の質の向上を並行して図る必要がある。 ・2、3年生の新規加入は限定的であると予測される。そのため、現在の加入率を維持するとともに、生徒の主体的・積極的な活動参加を促していく必要がある。 ・多くの生徒が目標達成に向け意欲的に活動を継続している一方で、一部に欠席傾向のある生徒も見受けられる。部活動の更なる活性化に向け、継続率の維持・向上に努めるとともに、活動内容の不断の見直しと改善を図ることが肝要である。	
達成目標	①部活動加入率	②部活動積極的参加率
	4月時点 85%以上 9月時点 83%以上 1月時点 81%以上 ※部活動の任意加入制への移行に伴う影響を注視し、学期ごとに適切な目標値を設定し、進捗を管理する。	1年生 90%以上 2年生 85%以上 3年生 85%以上 ※生徒の参加状況をA～Cの3段階で評価し、「A（概ね全ての活動に参加）」および「B（7割以上の活動に参加）」に該当する生徒の割合を算出する。
方 策	・1年生には、学級担任による指導に加え、特活部、学年主任、学科主任等がそれぞれの立場から、主体的・積極的な活動参加に向けた組織的な働きかけを行う。 ・新入生の入部を機に、2、3年生が上級生としての自覚を新たにし、責任ある態度で活動に臨めるよう指導する。 ・各学期に活動実態調査を実施し、学級担任が個々の生徒の活動状況を的確に把握できる体制を整備する。また、保護者会等の機会を通じて家庭との情報交換を密に行い、学校と家庭が連携して生徒への積極的な啓発・指導を促す。 ・長期休業中の継続的な活動が、技術向上や精神的成長に果たす役割を改めて生徒に周知する。明確な目標設定を促すことで、活動に対する主体的かつ前向きな姿勢を醸成する。 ・部活動の退部を希望する生徒に対し、学級担任や関係職員は、進路指導およびキャリア教育の観点から部活動が果たす役割や意義について改めて丁寧な説明を行う。生徒の将来のキャリア形成における継続の重要性を共有し、再考を促す。 ・生徒が抱える人間関係の悩みや心身の不調に配慮し、必要に応じて保健部相談係やスクールカウンセラー等の専門職と連携を図る。組織的なカウンセリング体制を構築し、多面的なフォローアップを実施する。	

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）

令和８年度 魚津工業高等学校アクションプラン －５－	
重点項目	学校生活
重点課題	規則正しい生活習慣の定着
現 状	・食生活・睡眠・運動等、生活習慣に問題をもって入学してくる生徒が多い。 ・特に夜型の生活や不規則な食習慣の偏りが、学習意欲の低下や不眠等、心身の健康と相関し、学校生活に悪影響を及ぼしている。
達成目標	睡眠時間６時間以下の生徒の割合
	20%以下を維持する。
方 策	・生活習慣調査を年２回（６月、１０月）実施し、各自の生活を振り返らせる。 ・問題があると考えられる生徒には、個別指導を実施する。 ・担任や部顧問、教科担当との連携を図り、保護者会等で保護者に協力をお願いする。 ・外部講師を招き、集団保健指導を実施する。

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）